

富山大学と富士フィルムが開発して、新型インフルエンザに効くという事でやったんですが、アメリカは絶対に使いません。ものすごい市場になると同時に、ハツカネズミの動物実験で、妊娠中のネズミに接種したら子供に奇形があったという事で、アメリカは絶対にこれを使わない。

中国はアビガンの後発薬を持っていて、めちゃくちゃ使ってます。投与後 7 日で回復するのが 8 割というデータが出ているというのですが、中国のデータは信用でけへん。中国以外の国でそれやってくれたらいいかなと思うのですが。アビガンは日本に 200 万個の在庫があります。

アビガンが注目されたのは、タイで、アビガンと同時にカレトラというエイズウィルスの薬を服用する事によって、見る見るうちに元気になったというのがあり、効果があるのではないかと臨床研究が進んでいるんです。

そして 3 週間ほど前に、東大で、ナファモスタットという薬が新型コロナに対して随分有効な治験が出ているという事で、エビデンスを積んでいます。この薬は既に開発されて、他の病気を治すための薬で安全性も確保されているので、これが本当に効くというのが分かれば、例えば、医療関係者がこれを予防薬として服用する事で医療現場に立つ事も出来るし、色んな事があるという事ですね。

今、不安を煽る話ばかり。G7 の電話会談で何を決めたかという、総力を挙げて、ワクチンと今までの薬でどれだけ効き目があるかの研究をやるという事で着々とやったんです。マスコミ、何でそれ言えへんの？ 不安煽る事ばかり言って。

これからどうなるか分かりませんが、延々と続くという事ではなくて、免疫ができるか・ワクチンが完成するか・対抗する薬ができるなら終息します。それがいつなのかが分からないというだけで、延々ではないのですね。

しかし、これが 1 年以内に終息したとしても、はっきり申し上げて、世界にこれだけ大きな負の影響を与えた新型コロナウイルス/COVID-19 (余り COVID-19 って使いたくない。他の言い方で言いたいけど、ちょっと YouTube やからやめときますが、アレ。あれウィルスね) 前後で、世界は全く変わると思います。

人類歴史を回顧した時、世界の流れや歴史を、その前後で画期的に大きく変えたものの中に疫病があるんです。今日のテーマは「**世界に蔓延する疫病・天災と聖書の預言**」。

世界の骨格は本当に疫病で変わって来ました。例えば中南米。メキシコから下の中南米の国々は全部スペイン語です。ブラジルだけがポルトガル語で、それ以外は全部スペイン語。それ以前に何千年も使っていた言葉を忘れてしまってスペイン語です。今世界で 1 番使われている言葉は英語 30 億人。2 番目は中国語。人口が多いから。3 番目がスペイン語。

なぜ中南米の国々がスペイン語で塗り潰されているのか？ メキシコにアステカ帝国、ペルーにインカ帝国がありましたが、スペインの征服者が行って、アステカ帝国はコルテスという男が滅ぼし、インカ帝国はピサロが滅ぼしました。

滅ぼしたと言うけど、アステカ帝国には 900 万人くらいいて、コルテスは 500 人で潰したんですよ。500 人で、何で 900 万人の国を潰せるんですか？ インカ帝国は 80 の民族を束ねる 1600 万人の帝国ですよ。それを滅ぼしたピサロは 168 人。たった 168 人で 1600 万人の国を潰すって、16 万倍ですよ。

なんぼ近代兵器持ってたからって言うてね、多勢に無勢過ぎるじゃないですか。これは、近代兵器だけでは絶対に説明がつかないんです。

一体何があったのか？ 疫病です。エスパニョール島にスペイン人の基地があったのですが、1518年に天然痘が発生しました。伝染病である天然痘はあっという間に中南米に広がり、インディオたちが激しい痛み・苦しみの中、バタバタと倒れて行きます。天然痘は今まで見た事がないような不思議な変な病気。この天然痘に対する恐れがインディオにあったけど、それ以上に恐れた事があったんです。

スペイン人は天然痘に全然罹らない。インディオばかり倒れて、スペイン人は何の害も受けてない。例えば、風邪が流行ったら、民族など関係なしで皆風邪ひくのに、天然痘は民族によって選別しているみたい。スペイン人は全く大丈夫で、彼らと戦っている自分たちだけが倒れて行く。それで、彼らはこう解釈しました。「あの白人のスペイン人と戦うのは神の御心に背く事だ。彼らは安全で、我々だけが災害を受けるのは、彼らの神が勝っているか、我々の神が戦うなと命じているのだ。」

この病気の結果、自ら進んでスペイン側に寝返るインディオの部族長が続出したんです。それによって、多勢に無勢の図式がひっくり返った。それで、少数派で入り込んだスペインが、アステカ帝国もインカ帝国もあつという間に滅ぼして、キリスト教カトリックを押し付けたんですよ。で、今日に至っている。

もし天然痘という疫病が南半球・中南米に入ってなかったら、スペインとの関係はこんな事になってないと思いますよ。スペインが征服者としてここに君臨する事は絶対にできませんでした。

疫病の前後で世界が変わる。世界は、疫病という目に見えず、得体のしれない、その時代に生きている人たちがどうにも出来ない、そして人口の大半を失ってしまうような最悪によって、力学が変わってしまう。

今日の福音集会では、世界が大きく変わった3つの問題を紹介したいと思います。

それは「世界3大宗教は、なぜ3大宗教になれたのか」という事。世界3大宗教は分類の仕方で選び方が変わりますが、信じている人の人数比では、最大はキリスト教で31%、2番目はイスラム教で24%、3番目が仏教で7%。全部合計すると、構成人口では6割越えるベストスリー。だから世界3大宗教。

なぜキリスト教が世界宗教になったのか？ なぜイスラム教が世界宗教になったのか？ なぜ仏教が東アジアでこんなに広がったのか？ もっと言えば、なぜ仏教が日本に入って来れたのか？

これを解く鍵は疫病なんです。それで、これを順番に紹介して行きます。

1) なぜキリスト教が世界宗教になったのか？

キリスト教という言い方は余り好きじゃないけど、人口に感謝しているので、敢えてそうっておきます。AD30年、人類の罪を身代わりに背負って賠償して下さるために、私たちの罪の償いを代わりにご自分の命で果たすために、キリストが十字架にかかりました。そして墓に葬られ、3日目に復活した姿を弟子たちが見たのです。

弟子たちは「このキリストこそ、人類の救世主である」と宣べ伝えて、ユダヤ人領域だけでなく、世界中に出て行って福音を伝え、ローマ中に広がって行きますが、ローマ世界では長い間、特に2世紀まで迫害を受けました。迫害を受けた理由は大きく分けて2つあります。

①偶像を拝まない。唯一神以外は礼拝しない；クリスチャンはクーデターをしません。

政治的に「キリストを信じてない政治家はぶっ倒せ」とかしない。立てられている権威は神によるものという事で、忠実に従順に従いますが、1つだけ例外があって、キリスト以外のものを拝まない。ローマ時代はローマ皇帝が神様なので「神として拝め」と言うけど、それだけは絶対にしない。偶像礼拝だけは妥協しないという事で迫害を受けました。

②社会秩序を乱す；ローマ時代は奴隷がたくさんいました。奴隷は「ものを言う道具」と言われたけど、底辺社会を支えているわけですね。しかし、奴隷階級の中にもキリストの福音が入って、奴隷たちが大勢クリスチャンになって行きました。彼らは家では奴隷でこき使われているけど、教会では主人も奴隷も同じ兄弟姉妹。中には、奴隷なのに教会の長老/責任者になっている。これはローマの秩序社会を混乱させるという事で、キリスト教はダメだと。

長い間迫害されていたけど、313年に公認化されます。つまり、その前に爆発的にクリスチャンが増えて、それを押さえる事ができなくなったという事なんですね。

ローマ帝国は2世紀に黄金時代を迎えました。五賢帝といって、5人の賢明な皇帝がズラズラと並ぶ。五賢帝の5番目がマルクス・アウレリウス・アントニヌス(121-180/在位161-180)。哲学者です。『自省録』(じせいりく)を書いていて、僕の学生時代の愛読書でした。この本は翻訳が6種類。草柳大蔵(くさやなぎ だいぞう)とか色々有名な作家が翻訳しているけど、1番秀逸は神谷美恵子(かみや みえこ/1914-1979)。ちょっとした事でイライラする人は、ストア学派の考え方だけど、『自省録』読んだらいいわ。クリスチャンでもメチャクチャ参考になります。どれだけネタにさせてもろたか。「マルクス・アウレリウス、ありがとう!」の世界です。

マルクス・アウレリウスは哲学の人でもあり、まだ分裂していないローマ帝国の非常に賢明な皇帝です。ユーフラテス川の東にイラン系のパルティア(BC247-AD224)という国があって、そこで大人しくしてたけど、勢力をどんどん拡大し、当時ローマが治めていたアルメニアを奪い取ってしまうのです。このまま黙ってたらローマの沽券(こけん)に関わるし、この時ローマは黄金時代だから「お前、何やってんねん!」とすぐに戦争。それが161年。

パルティアはあっという間に、ぶんどっていた物を奪い返され、押されて押されて、元々持っていた土地も押されて、パルティアの首都クテシフォンの直前までローマ帝国軍が入って行く。もう目と鼻の先で首都陥落という時に、突然ローマがリターンして帰りました。それが165年。実は、ローマに天然痘が発生したんです。

天然痘はラクダの体の中に原因病原菌があって、その時は別に悪さをしないけど、何かの拍子に人に感染すると、人の体の中で天然痘ウィルスに変異する。

感染して変異して発病すると、大体7日-16日が潜伏期間。潜伏期間の後、熱がバーッと40℃前後に上がって一旦下がる。下熱して3-4日の間に、主に顔面を中心に、全身に豆粒状の発疹がブワーッと出る。そして3-4日経つと、また40℃の熱がバーッと出て、発疹部分が化膿して膿になって膿疱になる。それが潰れたら害悪が体に広がるけど、粒状の膿疱は体の表面だけではなく内臓にも出るので、肺炎を起こして呼吸困難で亡くなる。致死率20-60%。恐るべき病気。だけど生き延びる人がいる。2-3週間越えて何とか踏ん張った人は、そのまま快方に向かうという事です。

パルティアは今のイランとイラクとシリアの一部です。中東の国。つまり、ラクダが日常生活の中にいる。

家畜と一緒に生活するという文化習慣がある。それで、パルティアは天然痘の免疫があったけど、ローマには免疫がなかった。

165年に兵士がバタバタと倒れたので、「これでは駄目だ」と引き返したんですが、そうする事によって、ローマ帝国中に天然痘ウィルスがばら撒かれた。当時ローマ人口は5000万人。その内500万~750万人が亡くなったと言われています。そのためローマ帝国中が大パニック。今まで見た事がない病気!

ローマの人たちはローマの神々に祈りました。ローマの神々はギリシャの神々のローマ版。僕も偉そうな事は言われへんけど、ローマって実用的な民族で、哲学や文化は余りオリジナリティない。政治や戦争は強いねんけど、文化的な事や形而上の事は余り得意じゃない。そういう人いるじゃない。

ギリシャにはオリンポス12神というのがいて、オリンポス山に男女6人ずつ12人の神さんがいてると。トップの神はゼウス/ローマではユピテル。同じ。英語ではジュピター。ゼウスの奥さんがヘーラー/ローマではユーノー。学問の神さんがアテナ/ローマではミネルヴァ。フクロウをペットに持っている。医学の神様はアポロン/ローマではアポロ。アポロンの息子がアスクレピオス。蛇が絡みついた杖を持っているおじさんの像を見た事がないですか? 外国に行くと、薬局の看板は蛇が絡みついている杖。昔、よう知らなかった時、モーセが青銅の蛇を掲げて癒されたところから来たと。違う。アスクレピオスはへびつかい座になってます。

この病気が蔓延した時、アポロ・アスクレピオス・ゼウス・神々・皇帝に、祈って祈って祈るけど、全然治らない。バタバタバタ。そして、今までの既存の伝統宗教に対する失望が広がるんです。

その中でクリスチャンは、死を目前にしている人たちにもものすごい親切。彼らも感染するけど、この時代のクリスチャンは、天然痘で死ぬのと迫害で死ぬのは同じくらいなんですよ。教会に受け入れ施設を作ったりして、死におののいている人に「恐れなくていいよ。神様はあなたの罪を赦してくれるよ。そう決めておられる。あなたの罪を赦すために、キリストがあなたの罰を被ってくれたから。キリストの死と復活を信じて、救い主として受け入れなさい。」

そのようにして、死に1番おののいている最期の時に看病を受けた人の子弟や親たちに、非常な権力者たちもいました。こうして、今まで迫害され、「こんなん、恐ろしい宗教や。アカン!」と言われて来たクリスチャンたちが信じているイエス・キリストへの見直しが始まり、この問題をきっかけに一気に広まって、313年に公認化され、392年に国教化されたんですね。

なぜローマ帝国でキリスト教が公認されて行ったのか? 背景は疫病の蔓延です。死が抽象的な概念じゃなく、いつでも誰でも今にも襲いかかるものとなった時、死の備えについて明確に答えを持っているのは福音だけです。これがローマの人の心をガッチリ掴んだ。ローマの後継国家が今のヨーロッパになるので、これが、キリスト教が世界に広まって行く1つの大きな理由です。

2) なぜイスラム教が世界宗教になったのか?

イスラム教を始めたのはムハンマド(570頃-632)ですが、詳しい事はよく分かってません。6世紀570年頃に生まれました。40歳(610年頃)の時(彼はメッカ近郊のシラー山の洞窟で瞑想するのが趣味だったので)、瞑想中に天使ガブリエルが現れて、何か持っていたものを「読め。」でも、彼は文盲で読めない。「読め。」読めない。読めるはずがない。でも「読め。」その時、スルスルと言葉が出て来た。その瞬間から、アッラーの預言者として自覚を持ち、布教を始めます。イスラム教の誕生。

彼はやがて亡くなりますが、彼が布教を始めて僅か 22 年間で、アラビア半島の殆どの地方で、殆どの部族がイスラム教に改宗します。これが 6 世紀-7 世紀。それは、あくまでもアラビア半島のアラブ人のみだけで、当時は、今もそうかもしれませんが、アラビア半島は世界の中では僻地です。ユーラシア大陸からボコッとみ出している。

当時、世界超大国が東西に 2 つありました。東ローマ帝国とササン朝ペルシャ。

ローマ帝国が 395 年に東西に分裂し、西ローマ帝国はすぐに滅びますが、東ローマ帝国は 6 世紀に絶頂期を迎えます。その時の皇帝はユスティニアヌス (483-565/在位 527-565)。

ササン朝ペルシャは、ローマですら倒す事ができなかったパルティアを滅ぼします。同じイラン系。ホスロー 1 世 (?-579/在位 531-579) はササン朝ペルシャ史上最高の名君で、この時が黄金時代。

東西両方が黄金時代なので、長い間戦争を続ける。それで、両方共が体力消耗してヘトヘトになっている時に、アラビア半島でイスラム教が産声を上げ、この教えの下でアラビア半島が統一されて行くのです。実はこの後、東ローマ帝国からササン朝ペルシャに、一気にイスラム帝国が広がるのですが、その理由が問題なんですよ。

6 世紀イスラム教ができる前、長い戦争の中で、東ローマ帝国にペストが発生したんです。

ペスト発生には 4 つの条件が要ります。ペスト菌・ノミ・クマネズミ・人間。この中の 1 つでも欠けていたら、ペスト菌は蔓延しません。でも、4 つ揃うとペスト菌はウワーッと広がって来る。

今回、この話をしようと思って、カミュの『ペスト』読んだんですよ。結局その話はしませんけど、もう気持ち悪いわ、あれ。気持ち悪いけど、ものすごいヒューマニズムの本やと改めて分かりました。神が無くても、人間は危機の中でどれほど崇高に生きれるかという。カミュは無神論・実存主義の小説家だから。彼が紹介するキリスト教の神父がムチャクチャ悪いねん。こいつ。

『ペスト』読んだら、ほんま怖いと思う。今、天然痘は撲滅されたけど、ペストはまだありますからね。

東ローマはエジプトも押さえていて、エジプトはインドと交易していました。で、ペスト、毎回のようにインドから出て来るんです。船で交易しているから、ペスト菌を持っているクマネズミが船に乗ってエジプトに行き、そこで感染して、同じ帝国内だからずっと感染して行って、あっという間に、東ローマ帝国がペストでバタバタ倒れる。ペストの致死率は 6 割-9 割です。

ペストに感染している東ローマの兵隊がササン朝ペルシャと戦っている内に、ササン朝ペルシャでもペストが流行る。ものすごい感染力だったそうです。結局、東ローマ帝国の人口の 4 割が死に、ササン朝ペルシャは記録が残ってないけどボロボロ。

その後でイスラムが出て来て、ムハンマドが亡くなった後、カリフ/代理人…、預言者はムハンマド。1 番最後。彼が打ち止め。だから、後の人は預言者を名乗る事ができないのでカリフ/代理人です。ムハンマドの後、イスラムがユーラシアに出て、僅か 7 年間でスペインからイランまで支配下に置きます。

東ローマ帝国とササン朝ペルシャは当時最先端の超大国です。それが、なんぼ長い間戦争して疲れてたからと言って、新参者の砂漠の民に領土を簡単に次々明け渡して行くなんて、説明できないですよ。ペストです。

不思議なのは、このイスラムの戦士が罹れへんねん。何でか？ 免疫あったんか分からへん。罹れへんねん。イスラムの教えの中で、手をよく洗ったかもしれませんね。そういう事も含めて、彼らは罹らずに済み、あつという間に押さえて、ササン朝ペルシャは 651 年頃に謎の滅亡を遂げています。恐らく疫病で倒れたんでしょう。

そして、サラセン帝国で、あつという間にイスラムの教えを広める事ができた。それは、相手が弱っていたから。人口が4割減ったら、兵士がいないじゃないですか。ローマでも。

今、私たちは別に人口が減っている訳じゃないけど、経済がストップするだけで、これ、もうどうなるの？ ほんまに。今日、家内が駒川商店街まで行ったら、もうオバチャン達が1枚100円のワイシャツ巡ってウワーって。東京見倣えやみたい。ザーっ、唾飛んでね。治外法権みたいな感じがするけど。

でも、人口4割減ったら、ほんまに経済止まったと思いますよ。ガタガタ。そこにバサッと外敵が入って来て、抵抗できなかったの、東ローマは端っこを渡さざるを得なかった。もし疫病がなかったら、砂漠の宗教が、こんなに世界宗教になる事は考えられなかったのです。疫病の前と後で、世界の構造が丸っきり変わってしまったという実例です。

3) なぜ仏教が世界宗教になったのか？

特に「なぜ仏教が日本に受け入れられたのか？」に特化して考えたいと思います。

日本にとって、仏教は外国の宗教でしょ。今、神道の「神」と仏教の「仏」が1つの単語になって「神仏」と言っているけど、元々仏教は外国から入って来たんですよね。外国からのものを、何で受け入れるようになったのかを説明したいと思います。

そもそも外国のどこから来たかという、朝鮮半島の百済（くだら）からです。

私が卒業した小学校は南百済小学校。東住吉区にあります。という事は、私の母校がある場所は、昔百済と言われている南の方にあった。今はもう無いけど JR 関西線、まだ国鉄関西線の時代、天王寺の次に百済駅があったんです。今あらへん。乗降客が少ないから言うて百済駅を潰した。そしたら近隣住民が不便やという事で、ちょっと離れた別の場所に作った駅が東部市場前（とうぶしじょうまえ）駅。

つまり、あの辺りは百済。百済メチャクチャ広いじゃない？ 今、百済貨物ターミナル駅があります。梅田の再開発で、あの貨物の所を全部潰したじゃないですか。それを全部こっちに持って来てるんです。

百済（ひやくさい）と書いて、どうやって「くだら」と読みます？ こんなん「くだら」って読めないでしょ？ これは朝鮮半島にあった百済の国の事です。何で、百済の人たちがたくさん入って来たのか？

朝鮮半島は1世紀-7世紀中頃まで、3つの国が並立する地域だったんですね。



1番大きい国が高句麗（こうくり）。今の朝鮮半島の南半分の東半分が新羅（しらぎ）。焼肉屋ちやいますよ。西半分が百済。

高句麗は北方民族/騎馬民族。北に住んでいる民族はどこも一緒に、暖かい所を求めて南下政策を取ります。ロシアと一緒に。南に南に向かう。ものすごく強いので、新羅と百済が同盟関係を結んで、高句麗 VS 新羅+百済で戦っていたけど、それでも高句麗が強いので、新羅が、何と高句麗に寝返るんですよ。高句麗+新羅 VS 百済になった。

「なんでやー?!」という感じ。半島の権力争いのすごい事すごい事。

Figure1

百済は「このままでは負けてしまう。」それで、中国の南朝の梁（りょう）という国に支援を求めると同時に、海を越えて大和朝廷（やまとちょうてい）に援軍を頼み、「もし味方してくれるなら、百済が持っているハイテク技術・文化・特に仏教を教える」と話を持って行きました。

百済から色んな最先端のものを持って来て、『新撰姓氏録』（しんせんしょうじろく）とか見ると、天皇家以外の豪族や貴族の1/3くらいが渡来人。このようにしてどんどん入って来ます。

6世紀、敏達（びたつ）天皇は、仏教を受け入れるべきか、受け入れざるべきか悩みました。天皇自身は日本神道の守護者だから。日本に昔から伝わる色んな神々/神道の守護者なのに、仏教入れたらまずいんじゃない？ だけど、この天皇に「仏教、入れるべきですよ！」と強く強く勧めた豪族がいるんです。

当時、大和朝廷は2派に分かれていました。1つは蘇我（そが）氏。もう1つは物部（もののべ）氏。これが、もう権力争い。今次期総裁選を巡って熾烈なのがあるけど、それは天満橋倶楽部でやります。

物部氏が抱えている人の中に中臣鎌足（なかとみの かまたり）がいます。彼は日本神道の大宮司の総元締め。つまり、物部氏は神道というチャンネルで天皇と繋がっている。

物部氏をライバルとして睨んでいる蘇我氏が物部氏と張り合うためには、神道ではない他の宗教を取り入れる事が1つの筋道。それで仏教。「仏教を取り入れましょう！」

敏達天皇はものすごく悩んで決めへん。決めない内に蘇我氏が「私の一族の個人の菩提寺/抛り所として仏教を受け入れたいと思います。」百済から大勢の僧侶と仏典などを持って来ました。

その時、弥勒菩薩（みろくぼさつ）像を持って来るんですが、これが金色やねん。今まで金色の偶像見た事がない。ピカピカや。全部金じゃない。木の上に塗っただけ。せやけど金やん。「金や！」

ありがたい教えの経典だけでなく、建てた仏教建築がすごい精巧な物。

鶺鴒舎（いかるがこうしゃ）、ご存知ですか？ 西岡常一（にしおか つねかず）さんの弟子が作った鶺鴒舎。神社仏閣の宮大工の集団ですが、すごいね。千年経っても崩れないという。それは、この仏教建築技術から来るわけです。

それを見た他の豪族たちが「ええなあ」と勝手に僧侶を招いて、お寺を建てて行く。それを見て、敏達天皇が「ええなあ」と思いはって「受け入れろ!」。受け入れて、百済からたくさんの僧侶や文化人たちが大和朝廷/日本にザーッと来て…、ほぼ同時に、疫病が蔓延するんです。天然痘。

日本書紀に詳しく書いてあります。

天然痘がウワッと広がった時、物部氏が「これは外国の神を受け入れた事による神罰や。こんな仏教なんかアカンですよ!」。敏達天皇が「そうやな」と仏教を一旦中断するんですが、中断したら益々広まった。そこで蘇我氏が「これはもう、仏の力を借りて撲滅するしかありませんよ!」「そうやね」と、また変わんねん。それで受け入れて、最終的に鎮火して行きました。こうして、日本に仏教が入ったんですね。

なので、日本仏教はそもそもお釈迦さんが伝えた仏教ではなく、「病気を治して下さい!」「災いが来ないように、天災が降りかからないようにして下さい!」というシンク宗教というか、願い事を訴えてかなえてもらうという仏教になります。

でも、お釈迦様の教えによると、願いを持つというのは、そもそも執着で「業」（ごう）なんです。受け入れて行く、諦念（ていねん）と言って…、執着するのがカルマの原動力になってダメなんですよ。

ところが、仏教が日本デビューした時は『疫病を鎮めて下さい』と願って、かなえてもらう」という形になったので、元々の仏教とは全然違う変質した形で受け入れられたんです。

悟りの哲学であった仏教が、一生懸命願い事をして・聞いてもらって・かなえてくれるような仏教。だから、日本仏教は本来の仏教とは全く違うんです。でも、そのような形で受け入れる事になった。

なぜ、今まであったものをそのように受け入れて行ったのか？ 後押しした時代背景にあるのは天然痘。疫病なんです。「パンデミックが起こる前と後では、世界は大きく変わる」というのが今までの人類歴史。

それを考えると、今回のコロナ騒ぎの前と後では、世界は大きく変わります。1つは、世界は親中国と反中国に分かれて行くと思います。これについては天満橋倶楽部で。今のところ、4/15を予定していますが分かりません。ひどい事になったら延びるかもしれません。(＊中止になりました。)

とにかく、コロナウィルスの前後で、世界は随分変わります。

今日のテーマは「**世界に蔓延する疫病・天災と聖書の預言**」。

実は今、世界を悩ませているのは新型コロナウィルスだけではありません。アフリカ・中東ではバッタの大量発生。映像をご覧になりましたか？「ナショナルジオグラフィック」という雑誌があって、写真がムチャクチャきれい。ネットでも見る事ができますが、そのバッタ特集を見たら怖い。

虫って1匹やったら怖くないけど、集団になったら怖いっすよ。幅40キロ・長さ60キロの集団で飛んで来るんですよ。そこに80万トン・200兆匹のバッタがいて、1日150キロずつ移動している。

東京は大阪市よりもはるかに大きいですね。東京23区の端から端まで30キロです。その面積は670くらいかな。バッタは2400(40×60)でしょ。東京23区の4倍の集団が1日150キロ、ガーンと移動する。その中で人間が揉みくちゃになっている写真があるんですけど、色盲検査みたいな写真。どこが人間の輪郭で、どこがバッタか分からへん。

サバクトビバッタと言いますが、1日に自分の体重と同じ分食べる。バッタは英語でLocust。その語源は「焼け野原」。焼け野原になったら、燃えるものは全部燃えてしまって更地になるでしょ。昔から、バッタ集団がズワーっと追いかけて来たら焼け野原状態になる。

サバクトビバッタは移動すると、性格も・体質も・習性も・体の柄も全部変わるんです。何が変わるかというと、アルカロイドが入っている植物を食べる。アルカロイドって毒です。まあ、すごい事になっている。

それだけじゃない。南半球では、今年の夏の間、史上最低の降水量と史上最高の高温で、オーストラリアでは去年9月から山火事で、まだ燃え続けている。未だに燃え続けていて、多くの動物が焼け死んでいる。

これ、どう見たらいいんだろう？ コロナウィルスだけじゃなくて、今自然界全体の中で、変な事・天災・天変地異、何百年に1回しかないような事が立て続けにパタパタと起こっている。

これを私たちはどう見て行ったらいいのか？

キリストが十字架にかかる前、エルサレムを見ながら言われました。

「世の終わりには、方々に飢饉と地震が起こるだろう。わたしが来る前/世の終わりには、このような前兆があるから、それを見たら、人の子が近いという事を悟りなさい。」

これは「天変地異・異常気象・方々に飢饉と地震があるというのは、自然界の通常の秩序が保てなくなって、自然界が崩壊し始める」と言われているんです。

それを聖書の別のところで説明しているの、今日はそこを解説して終えたいと思います。

ローマ 8:15-25。22 節をまず見ましょう。

ローマ 8:22 私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。

被造物とは神が造られた作品の事。被造物のすべてだから例外がない。すなわち、天文学に於ける色々な惑星も・地球も・自然界も・動物界も・植物界も・鳥類も・天候も・地殻変動も、被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめいている。これは詩的表現です。

僕は詩篇 148 篇が大好きなんです。148 篇は千年王国時代に実現する事を語っていて、「ハレルヤ！ 主をほめたたえよ！ 月よ 星よ 太陽よ 雹（ひょう）よ 草よ 魚よ 翼を持つ鳥よ 雪よ。歌え！」

雪、どないして歌うん？ 雹に声帯ありますか？ 雹が「ひよ～お～♪」ってありえへん。

これは詩的表現で、自然界が完全に秩序を回復している時、自然界を通して喜びが反映されているのが分かる。それを詩で言う「自然界よ 歌え！ ほめたたえよ！」

ここでは反対で「うめき」。苦しい。「今自然界は崩壊しつつある。宇宙も含め、全ての自然界の秩序が狂い出しているのだ」と言うんですね。

地球の自転スピードがどんどん遅れているのをご存知ですか？ だから今「うるう秒」というのを入れているんですよ。海は月の重力で満潮・干潮で動いていますが、あの大きな海の水の運動によって、自転にブレーキがかかっているんです。だから、地球の自転スピードは確実にゆっくりゆっくり遅れています。そして、月は毎年3センチずつ、地球から離れて行っているんですよ。

宇宙の精巧な秩序だった動き！ そうです。でも、ミクロで見ると確実に緩んで行っている。秩序がばらけて行っている。宇宙に於いてもエントロピー増大の法則が起こっている。適応できる。自然界が呻いている。苦しんでいる。秩序が崩れて行っていると語っているんですね。

なぜそうなるのか？

ローマ 8:20 被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには望みがあるのです。

自然界/被造物が崩れ出した原因は、自然界自身にあるのではなく、人間の罪のせいである。

虚無に服したというのは、自然界にも病気・混乱・破滅があり、地震・津波・様々な天災があるという事。

自然界のオーナーは神です。自然界の管理者として任命されたのは最初の人間アダム。アダムは管理人。管理人にはオーナーへの忠誠心が必要ですが、アダムがオーナーに反逆するという罪を犯した結果、自然界がダメになって行った。自然界は人間の間違っただけの罪という事の影響を受けて、今虚無に服している。

ナショナルジオグラフィックの話ばかりで申し訳ないけど、最近ハマっていて、写真がものすごくきれい。こんな事を書いてました。人間の管理が悪くて自然がダメになるというのは、アダムだけではなく今でもそうで、過去 150 年に起こった大地震の内、728 か所の地震は人間が起こした地震です。

人間が起こした地震と言うと「地震兵器や!」。僕はその世界に行かないんで。そうじゃない。

自然界が起こした地震は、プレートとプレートの境界線や活断層で起こる地震です。
ところが、人間が原因で起こる地震は、断層の活動が今まで全然なかった所で起こる地震。

どういう所で起こっているか? 簡単に言うと、地中にある膨大な地下資源を全部くみ取ってがらんどうにした時、地中の環境が不安定になって起こる。今、頁岩(けつがん)層からシェールガスやシェールオイルをいっぱい取っていますね。取った後、汚染水をまた戻しているけど、その水によってずれるんですって。

この雑誌で1番特集していたのは2008年の四川省大地震。マグニチュード7.9の大地震で8万人が死んだんですよ。8万人。四川省(しせんしょう)と雲南省(うんなんしょう)。紫坪壩(しへいほ)ダムの貯水量が3億2千万あるそうですが、その水の重量が引き金となって、起こるはずのない地震が起こって8万人が亡くなった。人間のやらかした事が原因で、自然界がいかに大反乱を起こしているかを特集しているんです。

山火事の原因の殆どは人間です。キャンプファイヤーの火の不始末か? それもありますが、1番多いのは電動工具の火花。アメリカは山火事が起こりそうになったら、コンセントに電気を送らないようにする方法を取っているらしいですが。

人間がやらかした間違った管理方法で自然界が大暴れするというのはよくある事だけど、1番根源的・究極的な問題はアダムです。最初の人間アダムがオーナーである神に反逆した結果、「地は・自然界はあなたのゆえに呪われてしまった。」それで、自然界は多くの被害を受ける事になってしまったんですね。

トップが間違うと、その下にいる者は皆ひどい目に遭うんです。今ソフトバンクグループの株が、もう大変でしょ。大変ですよ。皆さん、全然へっちゃらでしょ。持ってないから。ソフトバンクはトップ孫正義(そん まさよし)さんのトップダウンで全部決まるんです。トップの決断で全部決まる。

実は4Gのソフトバンクの中継局の機械はファーウェイ。ファーウェイを使っている企業は、今年8月からアメリカ政府と一切取引できません。アメリカ官公庁をはじめとするアメリカ企業と一切取引できなくなる。

その事を知っているんで、ソフトバンクと組んで非常に結びついていたトヨタが、2日前に(今日木曜日やから。流すのは日曜日だけど収録は木曜日)、突然NTTと株を2千億円ずつ交換したじゃないですか。切ったんです。突然。何で? ファーウェイ使ってたなら、アメリカに潰されるんですよ。

トップ孫さんの間違った判断によって、ソフトバンクグループ社員たちは皆その影響を受けるんですよ。トップが間違ったら、その下にぶら下がっている人たちは皆影響を受けるんです。それは、今の資本主義社会で当たり前にある事でしょ。

自然界のトップはアダムでした。アダムが反逆した結果、その管理下にあった自然界は、みな負の影響を受けて**虚無に服している**。虚無に服したのは、自然界が間違ったのではなくトップが間違ったから。という事は、**望み**がありますね。トップ/自然界を管理する人間が全く新しくされたら回復する。

ローマ 8:19 被造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れるのを待ち望んでいます。

神の子どもたちが、やがて新しい栄光の体となって現れる時が来る。その時、自然界は全部回復するという事です。

ちょっと難しいから説明します。ざっくり黙示録で説明しているように、聖書は預言の本で、世界は終末に向かってずっと進んでいます。やがて、7年間の特別に苦しい時代/患難時代が来ます。

患難時代の最後/7年間の1番最後の日に、キリストが地上に降りて来ます（地上再臨）。

そして、患難時代を終わらせて、新しい千年王国をもたらします。この千年王国が回復された自然界。

キリストが地上再臨する時、単独でこの世界に現れるのではなく、多くのクリスチャンたちを引き連れて現れます。この現れを、**神の子どもたちが現れる**という言葉で言っているのです。キリストは独りぼっちで地上再臨するのではなく、栄光の姿に変えられた多くのクリスチャンたちを引き連れて、この世界に来る。

なぜクリスチャンが天から連れて来られるのか？ 患難時代の前に携挙があって、全てのクリスチャンは天に引き上げられるからです。その時、この体じゃない。

クリスチャンになっても、あるじゃないですか。色々。老いるし、病気になるし。既往症の人はビクビクしてるんじゃないですか？（髪の毛）抜けるし、前立腺になるし、腰痛になる。膝痛い。年々、色々出て来ますよね。そして罪を犯しますわ。

昨日、あるドクターの家に行って聖書の話をしていたら、真顔で「質問があります。高原さんでもイラッとする事あるんですか?」と言われて。良い風に見て下さっているんやなど。「お付き合いが深くなって行くと、多分お分かりになると思います。」もうイラッとする事、いっぱいあります。イラッとして、その瞬間「悪かった…」そう思っているんですが、夜寝る前に「あ、そうやった。」後悔する事が多いですね。それは、自分の体の中に、罪の性質がまだ残っているからですよね。

罪を犯さない。老いる事がない。死ぬ事がない。キリストと同じような体に変えられてまた来る時、罪によってひどい事になったこの世界が新しくされる。つまり、この世界を回復するために、キリストは地上再臨するのも1つの目的です。

なのでクリスチャンは、色々おかしい事がどんどん起こるのを見て、この世の人と一緒に「どうしよう、どうしよう」と思うのは、ちょっとおかしい事なんですよ。

ローマ 8:22 私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。

産みの苦しみとは陣痛。陣痛は同じような痛みが段々周期的に・更に深く・ひどくなって、ピークの痛みが過ぎると新しい生命が誕生するんですね。陣痛は苦しみのための苦しみではない。拷問の苦しみではなく、何かを産み出すための苦しみ。

すなわち、今の色々おかしい異常気象は、良きものを産み出す時代が近づいているので起こっているのです。キリストの到来が近づいているので起こっている苦しみ。

出産が近づいているので陣痛が激しくなるように、キリストの到来が近づいているので、今世界の天変地異が激しくなっていると聖書は語っています。

だから、これはガッカリする事ではなく、キリストが近づいているという励ましを受けるべき事であり、また、そのような見方をする事がとても大事だと思います。

これはクリスチャンの特権ですが、クリスチャンには誰でもなれます。あなたの罪のために死んで下さった方、いや、死んで3日目によみがえり、天に帰って、今あなたがキリストを信じるように祈り、執り成している方。この方を自分の救い主と信じて受け入れる人を、神は喜んでご自分の子供として受け入れて下さいます。

今卒業式のシーズンですが親は出れない。息子がもうすぐ入学式なんです。「お父さん、ごめん。入学式、何回もやって。」入学式多い。それはどうでもいいんですけど。「感染拡大防止のため、親は来ないで下さい。」卒業式も親は来ないでと。中学や高校はビデオで見せたりする。

10年ほど前、スイス・ジュネーブの高校に勤務しているクリスチャンの言葉です。その高校の卒業式で、すごいサプライズがありました。近大の卒業式みたいなものですよ。皆さん、近畿大学の卒業式、ご存知ですか？時の人・芸能人が講演するんです。又吉直樹（またよし なおき）さん・キンコン西野・つく。色んな「時の人」。昔の眠い校長先生の話とかちやいますねん。皆ワートと。

ここでも、マイケル・ダグラス（1944-）が出て来たんです。ハリウッドスターですよ。そんなん、芸能人呼んだん？「だけど、すごくいい講演だった。私は、まるでイエス・キリストに言われているような気がしました。」

「あなたが大学に進んで、一生懸命勉強して、良い仕事に就いて、一生懸命働いたら、人生の成功者になれるでしょう。でも、それは人生の1番大切なことではありません。私はあなた達に言いたい事があります。あなた達は成功する人生を送りたいですか？それとも、人生で1番大事なことを1番大事にする人生を送りたいですか？死を間際にした時に後悔しない人生とは、人生で1番大切なことを大切にしたい人の人生です。生きている時に掴む成功なんて、死を間際にした時には何の意味もありません。だから、大事なことを1番大事にする人生を選んでほしい。」

ハリウッドのスターを極めた人が言ったから、余計に説得力がありました。

皆さん、あなたの人生で1番大事なことは、あなたの造り主に帰る事です。

あなたを造られた造り主の元に立ち返る事です。

家出をやめて、踵を返して、キリストという道・キリストという門をくぐって、あなたの父なる神様に帰る事が、人生で1番大事な事。そして、それは今すぐでもできる事です。

今、自然界の全てを通して、私たちに語って下さっているような気が致します。

是非、イエス・キリストを信じて下さい。心からお勧めして、メッセージとしたいと思います。

~~~~~  
\* 動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」検索。ぜひ見て下さい。

\* ラジオ番組「聖書と福音」（15分）も是非どうぞ。スマホでいつでも聞けます。YouTube もあります。

動画筆記：Rumi (Figure1:Wikipedia)